

発行日：1996年4月15日

ろくおん通信

No. 81

発行：読書文化センター録音製作係

処理を考える (9)



～ 漢字の処理 4 ～

今回は、点訳ボランティアのHさんに前回の文章を点訳するとしたらどんな処理をされるか考えて頂きました。点訳においても、漢字やルビ、記号などで処理が必要となるケースは音訳の場合とほとんど一緒といっよいでしょう。処理の方法は点字と音訳とで若干違ってきますが、点字では記号が使えるといった利点があるようです。どれを、どこまで補足するかは音訳も点訳も共通の問題です。

Hさんの点訳の例

森浩一著『古代史の窓』

((本文中の表記をつぎのように表します。))

「ツシマ」：片仮名で表記してあるもの

ツシマ：現在使われている表記 (タイコウジアイノ タイ・ウマ)

ツシマ (ツ)：ミエケン ツシノ ツ・ シマ

イキ：現在使われている表記 (カンスウジノ イチ・キ)

イキ (イ)：イズ ハントウノ イ・キ

「アワビ」：片仮名で表記してあるもの

アワビ (フク)：サカナヘンニ フク

アワビ：現在一般的に用いられている漢字表記 (サカナヘンニ ツツム)

アワビ (ムシ)：ムシヘンニ ツツム

※その他の場合は、適宜点訳者挿入符 (本文では括弧を用いて表記する) で

## ツシマ(ツ)とツシマ

戦後の考古学では、『古事記』や『日本書紀』の史実は、せいぜい五～六世紀ごろまで、それも部分的にしか遡らないとする風潮が強かった。僕のみるところ、古代史の領域でも、戦後すぐは崇神天皇のころからあと、それから応神天皇のころからあととなり、さらに厳密になって雄略天皇のころからあとなど、十年ぐらいのスペンで変化している。

ところが埼玉県の稲荷山古墳の鉄剣に百十五字を刻んだ銘文があらわれ、その人名の一人獲加多支齒大王が雄略天皇と推定されるようになってから、“いつからあと”のような概括的な議論はあまり聞かなくなった。とはいえ、やはり弥生時代のことなど記紀にはまったく反映していないと考えている人が多いだろう。

僕がいつも不思議に思うのは、倭人伝では『ツシマ』のことをツシマと表現しており、ツシマの表記法はそのあとどの時代も使われ、今日でもツシマである。つまり少なくとも千七百年のあいだ同じ字のあて方がつづいているのである。もちろん音韻学は僕の専門外だから、どうしてこの二つの漢字でその地名をあらわしたのかはわからない。

倭人伝でツシマと書いているだけでなく、『日本書紀』での国生み神話の地名でもツシマを使っている。このことは、おそらく『日本書紀』の編述にたずさわった人たちが『三国志』をよく読んでいたと推定されるから、ツシマの表記法をあてたのであろう。例えば奈良時代の太宰府にも、『三国志』などの中国の主要な書物は備えつけてあった。

土地の役割でいえば、『ツシマ』はツシマである。これは『古事記』の国生み神話での表記法である。イキをイキ(イ)、サドをサド(温度のド)などと漢字の音であらわしているのにたいして、『ツシマ』は港(津)がいっぱいある島という意味のツシマ(ツ)を使っている。実際、ツシマを訪れると港がたくさんあるばかりかそこには弥生時代に繁栄していた様子を物語る遺跡がたいがいある。佐賀県の呼子からフェリーが通っている印通寺の港の背後には、有名な原の辻遺跡がある。『ツシマ』は考古学の遺跡からみると、弥生時代にいちばん賑っていたらしい。

太平洋側では、伊豆諸島にツシマ(ツ)があった。この島は航海の要地ではあったが、火山があるため神の猛威が作った島としておそれられ、いつしかカミツシマ(コウズジマ)とよぶようになった。それにしても、玄界の『ツシマ』がツシマ国になったのに、伊豆半島は別にすると、神津島など伊豆諸島だけでは国にならなかった。ここにも航海の要地とはいえ、対外交渉での重要性の違いがあらわれている。

## 佐用姫岩と倭人伝

倭人伝では、ツシマから壱岐、壱岐から末盧へと舞台が展開する。帯方郡から倭に派遣された中国の役人の紀行文にもとづいて記述されたのであろう。マツロ(ス

エ・ロ)は、マツロ、『日本書紀』や風土記ではマツウラと書いている。ただしマツウラと書いても、マツラと発音することは周知のとおりである。倭人伝でマツラ(ロ)について、“四千余戸の家が山と海にそってある。草木がよく茂っていて前に行く人が見えない。魚やアワビ(フク)を盛んに捕っていて、深い海にもぐって取っている”と描写している。

僕はずっと以前に壱岐の印通寺から呼子までフェリーに乗ったことがある。船が呼子の港に入ってくると、うしろに山のせまった海岸ぞいに人家が帯状に並んでいるのを見て、倭人伝の描写のとおりだと感心した。それに海にもぐって「アワビ」のとれるのは、今日の唐津市のような砂丘のつづく海岸は適しない。この点も呼子とその周辺の地形はぴたりである。それもあって、マツロの中心地は別にして、魏の役人が最初に九州島で印象にのこったのは呼子のあたりだと考えたことがある。九三年、唐津市に二度滞在する機会があった。美しいマチだ。その美しさの一つは海岸に長くつづく虹の松原のある砂丘であろう。だが古代人もこの風景を見たのだろうか。

これは唐津にかぎったことではないが、日本海沿岸に砂丘のある土地は少なくないが、海側の砂丘(三つ並ぶことが多い)の形成は古代までさかのぼるところは少ない。唐津でも、虹の松原の砂丘には古代遺跡の存在は知られていない。つまり古代にはもっと山側にいくつかの潟のある地形だったと推定されている。

十月二十日、夜明けの鏡山の頂上に立った。衛星放送の生中継のためである。風土記や万葉集によると、鏡山は褶振の峯といった。それは大伴狭手彦が朝鮮半島に行くとき、サヨヒメ(オトヒメ)がこの山から船を見送りヒレ(一種のスカーフ)を振ったという。

山頂から見下ろすと、松浦川のほとりに巨岩の露頭がある。驚いて土地の人に聞くと佐用姫岩といって、サヨヒメが山頂から飛びおり、船を追ったという伝説のある岩石だそうだ。伝説はともかく、古代の唐津の海に岩礁があったとすると、「アワビ」を捕っていてもおかしくない。それが倭人伝の時代か、あるいはそれよりずっと前だったかは今後の研究にまたれる。

### 「アワビ」をアワビ(フク)と書くこと

倭人伝では、マツロ(スエ・ロ)国の風景として魚やアワビを海にもぐって捕っていると書いている。今日「アワビ」といえば、アワビと書く。“アワビ(フク)の貝の片思い”などと書くと“間違っていますよ”といわれかねない。ところが倭人伝では、アワビ(フク)の字を使っている。

余談になるが、十数年前京都の古道具屋をのぞくとあわび「アワビ」の殻を二つだけあわせ、それに漆で底と口を作った酒器を見つけた。百年ぐらい前、どこかに粋人がいて片思いなら二つを一つにしてやろうとして作らせたのかと想像してみた少し値は張ったが、標本に買っておいた。『日本書紀』の允恭天皇十四年の記事に

阿波国の海女の話がある。鳴門海峡にある無人の沖の島には海人集団の墓と推定される古墳があって、『アワビ』起しに使ったと考えられる長い石棒が出土するので注目されている。おそらくそのような集団にまつわる話であろう。

話の筋は、明石の海底の大『アワビ』の真珠を取って淡路の神を祭れというので一人の海人が取ることには成功したけれども命を落したという。ところでここでは『アワビ』にマムシの字を使っている。字典ではこの字は毒蛇の『マムシ』だが話の内容から『アワビ』で間違いなからう。

古代での文字の許容範囲というか、応用力はたいへんおおらかである。『肥前国風土記』には、長崎県の五島列島の産物がでていいる。ここでは、鯛や鯖のように一字でタイやサバをあらわして、アワビはアワビ(ムシ)の字にしている。

『アワビ』のことを倭人伝ではアワビ(フク)にしている。これは今日では使わないし、『日本書紀』や風土記でもいくつかの例を見たようになじまない。ところが八世紀に平城京へ諸国から運ばれた『アワビ』につけた荷札木簡でみると、アワビ(フク)の字をよく使っている。『アワビ』はどこの国からでも運ぶのではなく千葉県房総半島の安房国や島根県の隠岐諸島からの木簡が多いが、たいていはアワビ(フク)である。魚によっては、イワシをイワシ(イ・平和のワ・コレ)とかイワシ(イ・伊豆半島のイ・コレ)とか漢字の音を使って土地によって別の表記法があるのに、『アワビ』はアワビ(フク)でほぼ統一されている。

以下は僕の推定にすぎない。倭人伝にアワビ(フク)の字を使っているけれどもそれが古代日本人の字書代わりの役割をしたのではなかろうか。平安時代の『延喜式』でも盛んにアワビ(フク)の字が使われている。面白いことだ。

津島 対馬 壱岐 伊岐 佐渡 佐度 末廬 松浦 マツラ(口) 鯨  
鮑 蝸 蛸 伊和之 伊委之 神津島

編み( )をかけたところが点訳で配慮したところですが、点字の場合も工夫をすれば同じですね。しかし、記号等が使用できることから音訳で表現する以上に区別ができるようです。音訳では今回はツシマのカタカナ表記まで区別しませんでした。録音の場合、必要があるときにはしなくてはならなりません。なんでもしてしまうと聞く方はかえって分かり難くなってしまふことにもなります。こうしたことを念頭に必要な区別や補足を考えなくてはなりません。

では、今回は似たような例文をあげてみます。補足の方法など研究してみましよう。

## 個独と孤独

ところで、孤独という漢字の由来を調べてみると、そこにはマイナスのイメージがこめられていることを知る。「孤」は親をなくした子、みなしごであり、おそれて、おどおどする意味がこめられている。「独」は、気味の悪いもむしと、犬からつくられていて、人にいやがられる犬を意味する。そういう犬は、一匹狼ならぬ一匹犬としてのけ者にされることになる。ちなみに、孤独を意味する英語 (solitude)

やドイツ語 (Einsamkeit) はいずれも単に「ひとりであること」を示す言葉である。そこで、そういう「中立的イメージ」をあらわすために、「孤独」を「個独」と書きかえてみるのも一法ではある。

個独---ただひとりであること。

こんなふう書きなおしてみても、もちろん、現実が変わるわけではないが、多少は心構えに変化がありうるかもしれない。

「個独」と「孤独」のちがいに少しこだわると、前者は、ひとりであることが別に苦にならないような状態、むしろ、ひとりになって心が落ち着くというような状態であり、後者は、人びとから見捨てられてひとりになった状態、みずからは歓迎しないひとりの状態であって、不安や苦悩を連想させる。

一口に孤独と言っても千差万別である。人間の数ほど、孤独の数もあると言ってもいいかもしれない。自分の孤独のありのままのすがたを他人にわかってもらえないところに、孤独であるゆえんがある。他人に自分の孤独を覗いて見てもらうことができないからである。他人が介在するや、もうその瞬間から孤独は孤独でなくなってしまう。

自分の孤独を知っているのは本人のほかにはいない。そして、孤独にもいろいろな種類があることを知っているのも本人だけである。

そこで、自分の体験する孤独がいったいどのようなものであるかについて余裕をもって考えるひとつの方法として役に立つかもしれないのが、「個独」と「孤独」の区別である。

ひとりにいるとき、それが「個独」なのか、あるいは「孤独」なのか、ときには考えてみるのも一興である。単純な区別として、ひとりになってほっとした、というようなときは「個独」であり、だれかに電話をかけて長話をしたくなるようなときは「孤独」である。

わかりやすい実例をお見せしよう。

「私にとって、孤独な時間なしでは、たとえただ一人の愛する人と長いこといっしょにいても、一人でいることよりなお悪いことだ。私は中心を失ってしまう。散り散りばらばらになったような気がする」(メイ・サートン『独り居の日記』武田尚子訳・みすず書房)

ここに登場する「孤独」は、もちろん、私の分類法では「個独」に該当する。心をリ

フレッシュさせる「個独」とでも言おうか。ちなみに、カナダのピアニスト、グレン・グールドは、生涯の大半を「個独」のなかですごしたが、彼は、だれか人と会ったときには、その何倍かの「個独」な時間を持つ必要がある、という意味のことを言っている（グレン・グールドについては第三章で詳しく取りあげる）。

もう一例---

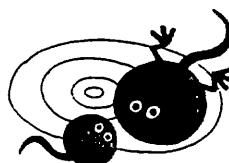
「死にゆく人間がまだ生きているうちに、生き残る者たちの共同体からすでに締め出されていると感じなければならないとしたら、それこそ、もっともいたましい孤独である」（ノルベルト・エリアス『死にゆく者の孤独』---中居実訳・法政大学出版局）もちろん、この孤独は人間が最後に体験する「孤独」である。

だれでも「個独」は歓迎するが、「孤独」は避けたい。「個独」を楽しみ、「孤独」を体験せずに済む人こそ幸福である。

（「音声訳」を考える 34）

二通りの読みがあって意味が異なるもの（42）

和解	カイ 仲直り。 カク 「こと カク 外国語を日本語で解釈する	家庭	カイ 家族が生活するところ ヤウ 人家のある所。人里。
雪白	ユキジロ 三盆白(砂糖)の別称。タカの腹、背、爪、くちばしまで白いもの。 セツパク 雪のように白いこと。	二分	ニフ 時間 1分、2分 ニフツ 二つに分けること。 ニフ 割合で十分の二、単位で1分の2倍
下刻	ゲコク 一刻を三分した最後の時 カク 川水が川底を削り取る作用	白魚	シウオ サケ目の魚。 シウオ スズキ目の海魚。 ニゴイ ニゴイの古名。



## 「所」のつくことばの発音

- ◎〔…シヨ〕という発音のみを認める語  
区役所 刑務所 工事所 拘置所 港務所 碁会所 裁判所 事務所  
市役所 宗務所 駐在所 登記所 商工会議所
- ◎〔…ジョ〕という発音のみを認める語  
試験所 授産所 出張所 紹介所 洗面所 送信所 放送所
- ◎〔…シヨ〕〔…ジョ〕の2とおりの発音を認める語  
安置所 安定所 案内所 印刷所 営業所 観測所 発電所 保育所  
管理所 休憩所 訓練所 検疫所 研究所 研修所 検定所 講習所  
作業所 撮影所 宿泊所 診療所 製材所 製作所 精算所 製鉄所

## 「日本」のつく語の読み

- (1)「日本」  
正式の国号として使う場合は〔ニッポン〕。その他の場合には〔ニホン〕といってもよい。
- (2)「日本…」「…日本」
  - ◎〔ニホン〕という発音のみを認める語  
日本画 日本海 日本海溝 日本海流 日本髪 日本共産党 日本紙  
日本酒 日本書紀 日本大学 日本脳炎 日本橋（東京） 日本風  
日本間 日本霊異記 日本料理
  - ◎〔ニッポン〕という発音のみ認めている語  
日本（国号） 日本永代蔵 日本国 日本国民 日本賞 日本社会党  
日本橋（大阪） 日本放送協会
  - ◎〔ニホン〕〔ニッポン〕の両様の発音を認めるもの  
日本一 日本記録 日本犬 日本語 日本三景 日本時間 日本製  
日本男子 日本刀 日本晴れ 全日本
  - ◎〔ニホン〕を第1とし、〔ニッポン〕を第2とするもの  
日本アルプス 日本銀行

ソニーのTC-RX1000Tは、録音レベルが下がるということで、メーカー側に問い合わせをしていますが、担当技術者からは「あり得ないことです。」という回答でした。先日、「1000T」の録音機を借りて、近点協録音製作委員会で実験をしたところ、カセットテープの種類によって、ノーマルタイプのテープでも若干録音レベルが下がることがわかりました。ソニーのカセットテープではまったく変化はありませんでした。これは自社のカセットテープで調整を行うため、他社発行のカセットテープでは若干の違いがおこるようです。カセットテープを変えるか、若干下がることを念頭に録音レベルを調整すれば問題はないようです。

## 利用者から製作依頼を受けている原本

『宣教 第19号』	<宗教>	『算命学中国占星術』	<心理学>
『海は涸っていた』	<小説>	『狂信者』 (上・下)	<小説>
『元気の出る本』	<随筆>	『復刻 S-F マガジン』	<小説>
『可視光線総合療法』	<医学>		

※お願い 以上のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。  
引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。

## 今回引き受けて頂いた原本とグループ

『警視庁草紙 上・下』	<小説>	えくてもあ
『幻燈辻馬車 上・下』	<小説>	えくてもあ
『復刻 S-F マガジン』	<小説>	えくてもあ
『社会福祉用語辞典』	<社会福祉>	えくてもあ
『死刑』	<小説>	えくてもあ
『解剖生理 下』	<医学>	えくてもあ
『虚落笛 句集』	<俳句>	テープライブラリーにしのみや 堺グループ
『ジュラシックパーク 2』	<小説>	ICCB リクエストグループ
『終末論と現代』	<宗教>	ICCB リクエストグループ
『わかりやすい障害者基本法』	<福>	ICCB リクエストグループ
『仏陀再誕』	<宗教>	ICCB リクエストグループ

## お知らせとお詫び

今号から、突然ですが『ろくおん通信』の用紙サイズをB4からA3に変更させて頂きました。事前にお知らせしませんでしたので、ファイルされている方などにはご迷惑をおかけすることになりますが悪しからずご了承下さい。

また、『ろくおん通信』を希望されているグループへは、これまで『ONE BOOK ONE LIFE』も同封していましたが、今号からは、『ろくおん通信』のみお送りさせていただきます。これは、サイズ変更によって重量が増え、『ONE BOOK ONE LIFE』を同封することができなくなった為です。ご了承下さい。